発行　京都市保育園保護者会連合協議会
604-8854　京都府京都市中京区壬生仙念町 30-2
ラボール京都（京都労働者総合会館）５階
TEL.075-801-8810 / FAX.075-822-6220
E-mail: info@shihoren.net
https://kyotoshihoren.wixsite.com/my-site
京都市保育園保護者会連合協議会

京都市保育園保護者会連合協議会
市保連ニュース
2022年 12月号

「保育・子育てに関する京都市への要望アンケート」「保護者会活動アンケート」を実施

保育・子育て世帯の声と コロナ禍中の保護者会活動の課題が明らかに

京都市保育園保護者会連合協議会（市保連）では、９月末から１０月にかけて、京都市内保育園の保護者の皆さんを対象とした「保育・子育てに関する京都市への要望アンケート」と、市内保育園の保護者会を対象とした「保護者会活動アンケート」を実施しました。皆様にはご協力をいただき、ありがとうございました。

今回のアンケート結果の概要を紹介いたします。アンケート結果の詳細は市保連ホームページにて公表しますので、そちらもぜひご覧ください。

①保育・子育てに関する京都市への要望アンケート

京都市の保育・子育て政策に関する全体的な満足度、「保活」、保育の質や配置基準、保育料、園とのコミュニケーションなど個別の満足度について回答をしていただきました。

特徴的な結果となったのは、保育内容の質と保育士配置基準についてです。保育内容や質に関しては８割が満足と感じていましたが、保育内容や質と密接に関連する保育士配置基準については45%が不満を感じていました。

個別意見からは保護者の先生方に対する感謝の思いが保育の内容や質に対する高い満足度に繋がっている印象を受けました。

保育内容や質に対する高い満足度と比べて、保育料については６割が不満を感じていました。京都市の保育政策では、保育の質を高めるために保育士配置基準で京都市独自に上乗せするなどの仕組みがある一方で、保育料は他の自治体と比べて高い傾向がありますが、保護者アンケート結果からはこうした政策を反映しているようにも思われます。

その他、「保活」については３割が満足、３割が不満を感じており、保育・子育て政策に関する全体的な満足度では５割以上が不満を感じていることが明らかになりました。また、園とのコミュニケーションについては８割が「取れている」と回答していました。

アンケート結果と個別意見については、市保連事務局で取りまとめの上、京都市や市会議員に届けるなど保護者の意見として政策に反映されるよう活用していきます。

②保護者会活動アンケート

市保連ではオンラインも併用しつつ、定期的に保護者会活動の交流会を開催しており、各園の保護者会活動について意見・情報交換を進めてきました。

そのなかで、コロナ禍で保護者会活動の見直しが進んでいることが明らかになってきたことを踏まえて、このたび各保護者会へのアンケートを実施し、25園から回答をいただきました。

各保護者会の保護者の加入状況については99%が全員加入でした。

役員会の会議の頻度は２~３ヵ月に１回が最多で、月１回以上会議を行っているところも25%程ありました。会議の場所は園内が約半数、オンラインは25%、園外は８%でした。開催時間帯は平日の夜が46%、土日の昼が25%ということです。

保護者会費については、子ども単位での徴収が７割、世帯単位が３割でした。会費以外の収入がある園が85%もありました。

また、52%の保護者会では園との定期的な懇談や協議が実施されていました。

これらの結果を踏まえつつ、市保連では引き続き保護者会活動の交流を積極的に進めていきます。メーリングリストや各種 SNS（Facebook、Twitter、LINE オープンチャットを活用しています）、保護者会活動交流会などにぜひご参加ください。

寄稿

逆行する京都市

京都市内民間保育園
保育士／保護者
新実 桂奈

京都市北区の民間保育園に勤めて 16 年目、小学校 1 年生の長女と 0 歳児クラスの次女の子育てを求職中の夫に支えられてしています。「子育て環境日本一」という京都市の保育の現状を、保育士としてまた、一人の母親として感じることを書かせて頂きます。

低すぎる保育士配置基準

保育の現場はハードです。我が園の開園時間は 7 時～19 時半で、職員の勤務時間よりも長く保育園で生活しているお子さんもおられます。ですから勤務時間内に事務や保育準備をしようと思うと、子どもたちのお昼寝の時間くらいしかありません。保育現場を守るため、トイレに行く時も相方の職員に声をかけてさっと済ませています。子どもは帰らないけど職員が退勤していく状態で、なかなか時間通りには保育から抜けられません。

京都市や国から支給される運営費は、施設利用児童の人数を元に割り出されます。極端な話、朝の 7 時に 5 人でも 10 人でも、そのうち 0 歳児が 5 人であろうと 5 歳児が 5 人であろうと、各年齢の在籍人数に対しての職員配置分しか運営費は支給されません。日中（私の園では 9:30 になったら）やっと配置基準の職員が揃うということになっています。なお、休暇や 1 時間の休憩時間を保障するための人手は自治体から降りて来る運営費の中には入っていません。パズルのように 30 分刻みでシフトを組んだり、配置基準より多く人を雇ったりしながら、なんとか園でやりくりしています。非常勤職員やバイトさんにも本当に助けてもらっています。

「ちょっと待っててね」と子どもに声をかける時、保育中で保護者の方に「おかえりなさい」としか声をかけられない時、一人しかいないのに子どものうんちが出た時などなど…。もう一人保育士がいたらなと思うことがよくあります。そもそも 0 歳児 3 人に対して保育士が 1 人で、災害時にどうやって赤ちゃんを避難させるのでしょうか。日本の配置基準は低すぎます！

京都市の制度改悪

京都市は国基準よりも少し手厚い配置基準を設け独自の人件費補助もしてきました。しかしそれは過去の話。10 年程前から制度改悪をしていて、じわじわと補助金削減を行ってきました。そして今年の 1 月、「行財政改革」だと急に具体的な制度を示し、4 月からいきなり実施でした。

改悪された新制度では、人件費単価を常勤で勤続年数 4 年目におき、0～11 年目までは加算率をつけてボーナス分も保障する形をとっています。経験年数 11 年以内の保育士で回せば、以前より一人当たりの給料も上がり、園の持ち出しはなくて済むのです。全産業平均より約 10 万円以上低い給料、先の見えない状況…。いよいよやりがいだけでは働き続けられなくなってきました。

コロナ禍で保育を含むエッセンシャルワーカーに注目が集まり、国は公的価格の見直しと 2022 年 9 月までの給与引き上げ（月々9000 円 UP）を決め、予算もつけました。しかし京都市は補助上限額を設定し、色々なカラクリから京都市持ち出し分を減らしています。配置基準は国よりいいのに出すお金を減らしていることもあり、いい保育をしようとすればするほど経営が苦しくなっています。市内の 268 ヵ園中 209 ヵ園が昨年度より補助金が減りました。「子育て環境日本一」を掲げるのなら、保育予算を削るのではなく、これだけ予算が必要だと、むしろ低すぎる国の配置基準を改善するよう国に働きかけ引っ張っていってほしいものです。

保育士として、保護者として

保育園で働く職員にも、もちろんそれぞれの生活があります。保護者対応や引継ぎ、保育準備などで残ることもあり、とりあえず迎えに行ってまた職場に子どもを連れて戻るということもあります。自園の子どもたちには笑顔で接しているのに、我が子にはできているのか。保育士のくせに何をしているのかと落ち込むこともあります。そんな時、職場の同僚や先輩に話を聞いてもらい、気持ちを立て直してまた翌日の保育に臨んでいます。

保育は子育てと同じように答は一つではなく、日々変化していく子どもの成長を間近で感じることができます。私自身面白いと感じるようになったのは 3 年目くらいからで（それまでが面白くなかったわけではありません！必死すぎたのです！！）、先輩から目の前の子どもを通して発達を学び、より子どもの姿が見えるようになってきたからでした。一旦産休・育休に入りほっこりした時間を過ごしながらもう一度本を開き、我が子の成長を見ながら発達を学べたことも大きかったです。帰る場所がある、支えてくれる職員がいるということは、安心して働き続けられることの要因だと思います。

子育て経験を活かして

保護者の立場から見ても、我が子を預ける保育園で子育て経験のある先生の存在がどんなに心強いか。子育て経験のない保育士にとってもどんなに心強く学べる対象であるか。園で大切にしている保育の基本が、ベテランからも中堅からも新人からも感じ取ることができた時、この保育園で良かったなと感じます。

子どもたちの笑顔のためにも、後輩保育者のためにも、どうか皆さん力を貸して下さい。

保育園＆保護者 数珠つなぎ

市保連に加盟いただいている保護者会の様々な活動や、仕事や生活と子育てを両立させる保護者の苦労や本音をつなぐ「保育園&保護者 数珠つなぎ」コーナー。今回は下京区の西七条保育園（運営: 社会福祉法人名倉みどり会）の保護者会をご紹介いただきます。



西七条保育園は下京区にある定員 190 名と比較的大規模な保育園で、乳児クラスのすずめ組、すずめ・ひよこ組、ひよこ組、あひる組、幼児クラスのくま組、かば組、ぞう組の７クラスがあります。

保育園は「本園」「ちいさなおうち」「よつばのおうち」の３件の建屋で構成されおり、本園ではすずめ・ひよこ組からぞう組の子どもたちが生活し、本園向かいにある「ちいさなおうち」で０歳クラスのすずめ組の子どもたちが生活しています。

「よつばのおうち」は本園から南に数メートル離れにあり、幼児クラスの子どもたちがおもちゃで遊び、また２年前から小学生の学童保育も始まり、この「よつばのおうち」で放課後過ごしています。

毎日子どもたちは、園庭にあるうんてい（通称：虹色うんてい）や鉄棒、砂場での砂遊び、お団子作りや、ボールを使って元気に走り回っています。また、「よつばのおうち」の横に新たに第２園庭ができ、子どもたちみんなが園庭であそべるようになりました。

日々の生活の中で、子どもの「身体の使い方」を意識しており、体幹や柔軟を意識させるようなリズムあそびや、竹馬、戸板のぼりや跳び箱にも取り組んでいます。

また「食」へのこだわりも強く、久保園長も「食は生きていくために必要なこと」とおっしゃっており、給食室の先生と話し合いながら食材も厳選しながら選んでくれています。離乳食教室や、食にかかわるお便りや勉強会も行い、親子で「食」を考える環境となっており、子どもたちも強い身体になるよう取り組んでいます。

保護者も一緒に楽しむ園生活

西七条保育園保護者会の活動内容についてコロナ前は、各クラス保護者対抗でドッチビーをおこなうレクリエーション、保護者みんなで保育園をきれいに清掃する園庭整備、やぐらや屋台を出して親子・先生で楽しむ夏まつり、運動会のお手伝い・バザーでは出展品のお手伝い、出店お手伝いを行います。その他、保護者会発行の保護者手記『くるみ』製作等があります。しかし近年では、ほとんどの行事を中止、規模縮小で実施しており、思うように保護者会活動を行えていないのが現状です。

近年中止にはなっていますが、西七条保育園の保護者活動の中で、「おやじの会」というものがあります。これは「お父さん方も、もっと保育へ参加してほしい、保育園にも来てほしい、行事に参加してほしい」という園の思いから始まって、年３回お父さん方と先生方が園の食堂に集まり、食事をしながら交流を持っています。普段は仕事都合でなかなか園に行けないお父さん方も参加し、毎回 30～40 名ほど集まります。この会に参加したお父さんは、これ以降の保育園の行事や子どもの送迎に積極的に参加してくれるようになります。

また「おかん太鼓」「おやじ太鼓」という保護者サークル（？）があり、園の先生指導の下、夏まつりやバザー前に太鼓の練習をおこない披露しています。今年のバザーでは、「おかん太鼓」の演目があり会場を盛り上げておりました。ちなみに私も「おやじ太鼓」のメンバーとして過去の夏まつり・バザーで太鼓を叩かしてもらいました。

「おかん太鼓」や「おやじ太鼓」とは別に、「おやじバンド」というグループもあります。



楽器ができるお父さん方で結成されており、ギター・ベース・ドラムは勿論、なんとバイオリンで編成されています。今年のバザーでは新たにお母さんメンバーを加入して、久しぶりの復活ステージ、子どもたちがボーカルとなって素敵な演奏を見せてくれました。

西七条保育園の保護者の皆さんは、子どもたちと一緒になって保育園生活を楽しんでいますよ！

これからの保護者会へバトンをつなぐ

そんな西七条保育園に私も今年度で 10 年目となり、そして最後の年となります。西七条保育園には、小学４年の息子、小学２年の息子、そして現在年長の娘がお世話になってきました。また息子・娘同様、私自身も西七条保育園にお世話になってきました。



育児のことなど全く分からない私に対して、子どもへの寄り添い方などを先生方は勿論、保護者会活動を通じて、先輩の保護者の皆さんも親身になって相談に乗ってくれて、私も親として成長でき、本当に感謝しております。

これからの保護者会活動は、今までとは違う形での運営になっていくのではないかと思っています。それぞれの保育園保護者会で、これからの活動を検討していくのは勿論ですが、市保連の活動を通じて、他保育園と連携を取りながら、みんなでこれからの新しい保護者会活動を生み出すことができるのではないかと考えています。

令和４年度　西七条保育園保護者会会長

市保連
講演会企画

保護者会は何のため？

～改めて、保護者・保護者会の役割を考えてみませんか～

仕事に子育てだけでも手一杯なのに…保護者会活動までは大変！と思った経験のある人も少なくないのではないでしょうか。またコロナ禍においては集うことが難しく、保護者会の運営に苦労しているという保育園も多いようです。

保護者や保護者会は、保育園といっしょに保育を進めたり、社会や行政に子育て世帯の声を届けたりする、とても大切な役割を負っています。

今回の企画では、保護者のネットワークである「保育園を考える親の会」に長年携わり、保護者の立場から、社会への発信や政策の提言などを続けてこられた普光院亜紀さんのお話を伺いながら、改めて、保育における保護者や保護者会の役割を考えてみたいと思います。

日時：2023 年 2 月 11 日（土・祝）14:00～16:00　参加無料 事前申込不要

講師：普光院　亜紀 さん（保育園を考える親の会　顧問）

会場：佛教大学二条キャンパス N1-209 教室

〒604-8418　京都市中京区西ノ京東栂尾町 7（右記地図参照）



❑プログラム：
- 普光院亜紀さん講演
- 普光院さんと京都市内保育園保護者・園長先生を交えたミニ・シンポジウム

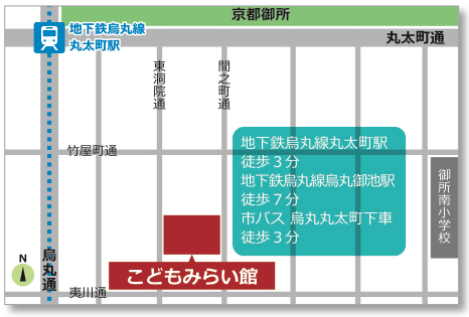
❑オンライン配信の視聴について（参加無料・事前申込不要）
- 視聴には Zoom アプリケーションが必要です。下記の ID でアクセスしてください。

Zoom ID：838 5365 7170

2022 年度第 3 回保護者会活動交流会のお知らせ

2022 年度第 3 回市保連保護者会活動交流会を下記の通り開催します。

日時：2023 年 2 月 24 日（金）19 時から 21 時
場所：こどもみらい館 2 階 第 3 研修室
京都市中京区間之街通竹屋町下る楠木町 601-1
※　オンライン参加（Zoom 使用）も可能です
※　新型コロナ対策のため保育体制は確保しておりません。ご了承ください。



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomでのリモート参加も可能です。リモート参加をご希望の方は、2月21日（火）までに市保連事務局へメール（kyotoshihoren2014@gmail.com）にてご連絡下さい。折り返し、事務局よりZoomミーティングID・レジュメなどをお送りします。

各園の保護者会役員が抱える悩みを相談し合い、他の保育園の状況についても知り、交流する機会ともなります。未加盟の保護者会、保護者個人でのオブザーバー参加も歓迎します。

●お仕事と子育てで大変お忙しい日々と思いますが、皆さまぜひご参加ください！●

★市保連メーリングリストご登録のお願い★

京都市保育園保護者会連合協議会（市保連）では保護者・保護者会相互の交流や情報交換のため、メーリングリストを設けています。この機会にぜひご登録ください。

登録をご希望の方は、保育園名・お名前と、「メーリングリスト登録希望」と記入したメールを、kyotoshihoren2014@gmail.com（市保連事務局）宛にお送りください。

『市保連ニュース』のバックナンバーは、市保連ホームページで公開中です！